

令和2年度 森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート

※○数字は「令和2年度（2020年度）みんなで支える森林づくりレポート」の資料番号

【目次】	ページ
① みんなで支える里山整備事業	・・・ 1
② 道路への倒木防止事業	・・・ 2
③ 河畔林整備事業	・・・ 3
④ 県民協働による里山整備・利用事業	
・里山整備利用地域活動推進事業	・・・ 4-1
・里山資源利活用推進事業	・・・ 4-2
⑤ 地域で進める里山集約化事業	・・・ 5
⑥ 地消地産による木の香る暮らしづくり事業	
・「子どもの居場所」木質空間整備事業	・・・ 6-1
・木工体験活動支援事業	・・・ 6-2
・木づかい空間整備事業	・・・ 6-3
・県産材公共サイン整備事業	・・・ 6-4
⑦ 薪によるエネルギーの地消地産推進事業	・・・ 7
⑧ 松くい虫枯損木利活用事業	・・・ 8
⑨ 里山整備利用地域リーダー育成事業	・・・ 9
⑩ 森林セラピー推進支援事業	・・・ 10
⑪ エコツーリズムガイド人材育成事業	・・・ 11
⑫ 自然教育・野外教育推進事業	・・・ 12
⑬ 学校林等利活用促進事業	・・・ 13-1
⑬ 自然保育活動フィールド等整備事業	・・・ 13-2
⑭ まちなかの緑地整備事業	・・・ 14
⑮ 観光地の景観整備（県単道路橋梁維持修繕費）	・・・ 15-1
⑮ 観光地等魅力向上森林景観整備事業	・・・ 15-2
⑯ 森林づくり推進支援金	・・・ 16
⑰ みんなで支える森林づくり推進事業	・・・ 17
⑱ 森林（もり）の里親促進事業	・・・ 18
⑲ 地球温暖化防止木材利用普及啓発事業	・・・ 19
⑳ 地球温暖化防止吸収源対策推進事業	・・・ 20

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート（令和2年度事業分）

事業名	①みんなで支える里山整備事業	部局	林務部	課・室	森林づくり推進課
事業区分	1 「防災・減災」及び「住民等による利活用」のための里山等の整備	実施期間	H20～	E-mail	shinrin@pref.nagano.lg.jp
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)					
8つの重点目標	労働生産性				
総合的に展開する重点政策	2-4 収益性と創造性の高い農林業の推進				

1 事業の概要

現状	・地球温暖化の影響等で局地的な豪雨等による土砂災害や流木被害等が増加しており、こうした災害を防ぐための森林整備は喫緊の課題。 ・また、過疎・高齢化が進む山村地域で里山管理の空洞化を抑制するためには、地域住民等による自立的・持続的な森林の利活用が重要。
目指す姿・成果目標	①防災・減災のために必要不可欠な里山の間伐等 概ね4,300ha程度/5年間 ②地域住民等の主体的な参画による里山の整備・利活用 概ね1,500ha程度/5年間 ③安全が確保される主要なライフライン等 概ね150箇所程度/5年間 【取組により期待される効果】 間伐材の搬出量の増加、森林整備の実施を通じた防災意識の向上、地域住民の里山利活用の増加

2 事業の実施状況

令和2年度の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・未整備の里山のうち、科学的知見に基づき「防災・減災」の観点から優先的に整備が必要な森林の間伐を推進 ・長野県ふるさとの森林づくり条例に基づく「里山整備利用地域」において、住民協働による里山の整備・利活用を促進 			
	事業内容	事業主体	事業実績	令和2年度決算額 [うち森林税活用額]
	①防災・減災のための間伐等 ②県民協働による里山の整備・利活用 ③ライフライン等保全対策	市町村、森林組合、NPO法人、森林所有者の団体等	①防災・減災のための間伐等 808ha (R2当初:808ha) ②県民協働による里山の整備等 81ha (R2当初:78ha、R元繰越:3ha) ③ライフライン等保全対策 67箇所 (R2当初:58箇所、R元繰越:9箇所)	519,089,900円 [519,089,900円]

事業コード	区分(単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
		予算額	前年度繰越	321,508	360,439	26,468	2,275	
	国費	108,446	112,838	0	0		221,284	
	森林税	213,062	247,601	26,468	2,275		489,406	
	当初	412,454	201,550	495,000	422,000		1,531,004	
	国費	116,806	0	0	0		116,806	
	森林税	295,648	201,550	495,000	422,000		1,414,198	R2は補正予算40,000千円含む
	合計	733,962	561,989	521,468	424,275		2,241,694	
	国費	225,252	112,838	0	0		338,090	
	森林税	508,710	449,151	521,468	424,275		1,903,604	
決算額	前年度繰越	321,508	242,729	26,466			590,703	
	国費	108,446	61,045	0			169,491	
	森林税	213,062	181,684	26,466			421,212	
	当初	52,015	167,139	492,624			711,778	
	国費	3,968	0	0			3,968	
	森林税	48,047	167,139	492,624			707,810	
	合計	373,523	409,868	519,090			1,302,481	
	国費	112,414	61,045	0			173,459	
	森林税	261,109	348,823	519,090			1,129,022	

指標及びその達成状況

成果目標		H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
①防災・減災のために必要な里山の間伐	目標値	1,290ha	1,800ha	950ha	795ha		4,300ha	
	実績値	150ha	232ha	303ha	375ha		1,500ha	
		—	18箇所	27箇所	19箇所		55箇所	R3にR2からの繰越1箇所含む
②地域住民等の主体的な参画による里山の整備・利活用	目標値	115ha	803ha	808ha			1,726ha	
	実績値	18ha	59ha	81ha			158ha	R2にR元からの繰越3ha含む
		—	63箇所	67箇所			130箇所	R2にR元からの繰越9箇所含む
③ライフライン沿いの危険木の伐採	目標値	—	—	—	—	—	—	
	実績値	—	—	—	—	—	—	
		—	—	—	—	—	—	

目標に対する成果の状況	<p>(達成状況) ・集落周辺に位置する森林の多面的機能の回復・維持・増進を図るために間伐808haを実施した。 ・里山整備利用地域において、森林と地域との関係性を再生し、自立的・持続的な森林管理の構築を図るための整備を実施した。 ・市町村からの要望に基づき、特に重要とされるライフラインの保全を図るため、危険木の伐採を実施した。</p> <p>(副次的な効果) ・地域における課題解決に資する森林整備に支援することができた。</p>
-------------	---

県民会議・地域会議等からの意見	<ul style="list-style-type: none"> ・一度事業を実施した箇所は再び事業対象とならず使いにくい。地域住民に事業効果を実感してもらえるような普及啓発が必要。 ・防災・減災に力を入れて、住民の命を守る施策をお願いしたい。 ・災害が大型化しているため、防災・減災の事業は重要。一層の取組強化が必要。 ・想定外の自然災害を考えて里山の整備事業を加速することが急務だと思う。必要なところを調査して、効率的に森林税を活用してもらいたい。 ・ライフラインに関する整備は、住民の目に見える形で安全・安心が確保できた。今後も積極的な事業展開を。
-----------------	--

3 今後の事業の方向性

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input checked="" type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width: 50%;">課題</th> <th style="width: 50%;">今後の方向性</th> </tr> <tr> <td>地域の課題等を的確に捉え優先的に整備が必要な箇所と、地域の事業実施体制との調整を図る等、継続的に支援していく必要がある。</td> <td>令和元年度から新たに取組みを始めたライフライン等保全対策への対応を含め、地域のニーズと事業実施体制の的確な把握及び調整を図り、現地機関と協力して引き続き地域への支援を継続していく。</td> </tr> </table>	課題	今後の方向性	地域の課題等を的確に捉え優先的に整備が必要な箇所と、地域の事業実施体制との調整を図る等、継続的に支援していく必要がある。	令和元年度から新たに取組みを始めたライフライン等保全対策への対応を含め、地域のニーズと事業実施体制の的確な把握及び調整を図り、現地機関と協力して引き続き地域への支援を継続していく。
課題	今後の方向性					
地域の課題等を的確に捉え優先的に整備が必要な箇所と、地域の事業実施体制との調整を図る等、継続的に支援していく必要がある。	令和元年度から新たに取組みを始めたライフライン等保全対策への対応を含め、地域のニーズと事業実施体制の的確な把握及び調整を図り、現地機関と協力して引き続き地域への支援を継続していく。					

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート（令和2年度事業分）

事業名	②道路への倒木防止事業	部局	建設部	課・室	道路管理課
		実施期間	R1 ~	E-mail	michikanri@pref.nagano.lg.jp
事業区分	1 「防災・減災」及び「住民等による利活用」のための里山等の整備				
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)					
8つの重点目標	-				
総合的に展開する重点政策	4-1 県土の強靱化				

1 事業の概要

現状	<ul style="list-style-type: none"> 道路管理区域外(山林)の立木は所有者による手入れが不十分で間伐がなされておらず、倒木の恐れがある危険木が多い。 台風等の異常気象時に倒木による通行止めが発生している。
目指す姿・成果目標	<ul style="list-style-type: none"> 県管理道路沿線の道路区域外の危険木伐採 概ね20箇所程度/5年間【取組により期待される効果】 危険木伐採により倒木による通行止めリスクの低減を図り、災害時の主要なライフラインが保全され、県民生活の安全・安心が確保される。

2 事業の実施状況

令和2年度の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> 異常気象時等に県管理道路沿線の道路区域外から道路へ倒伏する恐れのある危険木の伐採 			
	事業内容	事業主体	事業実績	令和2年度決算額 [うち森林税活用額]
	道路への倒木防止(危険木伐採)	長野県	危険木伐採 10箇所	45,000,000円 [45,000,000円]

事業コスト	区分(単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
	予算額	前年度繰越		0	0	0		0
当初予算			30,000	45,000	10,000		85,000	
補正予算			30,000				30,000	
合計(A)			60,000	45,000	10,000		115,000	
Aの財源	森林税		60,000	45,000	10,000		115,000	
	国庫支出金		0	0			0	
	その他		0	0			0	
決算額(B)		60,000	45,000				105,000	
次年度への繰越額(外数)			0	0			0	

指標及びその達成状況

成果目標	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考	
①道路への倒木防止	目標値	①	8箇所	8箇所	5箇所	20箇所		
		②						
		③						
	実績値	①	9箇所	10箇所			19箇所	
		②						
		③						

目標に対する成果の状況	(達成状況)	<ul style="list-style-type: none"> 近年の台風等で道路への倒木被害があった路線やその周辺で危険木の伐採を行い、倒木の未然防止により通行止めリスクを低減しライフラインの保全を図った。
	(副次的な効果)	<ul style="list-style-type: none"> 事業の実施箇所では森林づくり県民税を活用している旨の看板等の設置を行い、森林づくり県民税の周知及び理解の推進にも取り組むことができた。

県民会議・地域会議等からの意見	<ul style="list-style-type: none"> 森林づくり県民税の創設により、これまでやりたくてもできなかった事業ができ、ありがたく思っている。 道路への倒木防止などの事業は徐々に進んでいて、成果も出ていると思うが、最近の天候の変化による土砂崩れなどの発生に備えて更に力を入れて、範囲を広げていってほしい。
-----------------	--

3 今後の事業の方向性

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input checked="" type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施	
	課題	今後の方向性
	<ul style="list-style-type: none"> 過去の倒木被害箇所を参考に効果的な伐採が実施できた。 地権者との調整等に時間を要し、伐採時期が冬期になる箇所もあった。 	<ul style="list-style-type: none"> 災害時の倒木被害状況や道路パトロール等において優先的に伐採が必要な箇所を選定し、異常気象時等の倒木による通行止めの未然防止に継続的に取り組んでいく。

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート（令和2年度事業分）

事業名	③河畔林整備事業	部局	建設部	課・室	河川課
		実施期間	H30～	E-mail	kasen@pref.nagano.lg.jp
事業区分	1 「防災・減災」及び「住民等による利活用」のための里山等の整備				
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)					
8つの重点目標	-				
総合的に展開する重点政策	4-1 県土の強靱化				

1 事業の概要

現状	・河川区域外の民地等の立木(河畔林)は、所有者による手入れが不十分で間伐がなされておらず、細く倒れやすい木が密生し、豪雨時に倒れ流出し、橋梁部で川をせき止めるなど、水害の発生要因となる恐れがある。
目指す姿・成果目標	・防災強化が必要な河畔林の整備 概ね75箇所程度/5年間(県管理河川)、概ね100箇所程度/5年間(市町村管理河川)

2 事業の実施状況

令和2年度の実施状況	・防災強化が必要な河畔林のうち、災害時の危険性が高い箇所の河畔林の除間伐を推進			
	事業内容	事業主体	事業実績	令和2年度決算額 [うち森林税活用額]
	・河畔林の整備	長野県、市町村	県管理河川の河畔林整備 21箇所 (R2当初20箇所、R元繰越1箇所) 市町村管理河川の河畔林整備 33箇所 (R2当初33箇所)	144,436,000円 [144,436,000円]

事業コスト	区分(単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
	予算額	前年度繰越	0	20,286	4,313	38,527		63,126
当初予算		112,500	112,500	178,650	60,000		463,650	
補正予算		-5,600	0				-5,600	
合計(A)		106,900	132,786	182,963	98,527		521,176	
Aの財源	森林税	106,900	132,786	182,963	98,527		521,176	
	国庫支出金	0	0	0			0	
	その他	0	0	0			0	
決算額(B)	83,141	128,464	144,436			356,041		
次年度への繰越額(外数)	20,286	4,313	38,527			63,126		

指標及びその達成状況

成果目標		H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
①県管理河川の河畔林の整備 ②市町村管理河川の河畔林の整備	目標値	①	9箇所	13箇所	14箇所	20箇所	75箇所	R3にR2からの繰越10箇所含む
		②	15箇所	15箇所	22箇所	20箇所	100箇所	
		③						
	実績値	①	13箇所	20箇所	21箇所		54箇所	
		②	21箇所	23箇所	33箇所		77箇所	
		③						

目標に対する成果の状況	(達成状況) ・計画的に事業を実施し、成果目標を達成することができた。 (副次的な効果) ・河畔林を除間伐したことで、農村風景の景観向上や市街地への獣の移動経路阻害対策に繋がる等の効果が得られた。
-------------	---

県民会議・地域会議等からの意見	・住民の目に見える形で安全・安心が確保できた。今後も積極的な事業展開を。 ・災害の発生に備えて更に力を入れて、範囲を拡大してほしい。
-----------------	---

3 今後の事業の方向性

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input checked="" type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施	
	課題	今後の方向性
	・地権者等との調整に時間を要し、繰越が増額となってしまった。	・個別事業のフォローアップを実施し、年度計画の前倒し等の調整も行い事業を進める。 ・事業実施計画箇所においては、地権者等と早期に調整を図る。

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート（令和2年度事業分）

事業名	④県民協働による里山整備・利用事業 (里山整備利用地域活動推進事業)	部局	林務部	課・室	森林政策課
		実施期間	H30～	E-mail	rinsei@pref.nagano.lg.jp
事業区分	1 「防災・減災」及び「住民等による利活用」のための里山等の整備				
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)					
8つの重点目標	労働生産性、社会増減、観光消費額				
総合的に展開する重点政策	2-4 収益性と創造性の高い農林業の推進				
	6-1 個性豊かな地域づくりの推進				

1 事業の概要

現状	過疎化・高齢化が進む山村地域で里山を保全するには、地域住民等による里山の多面的な利活用を進め、管理の空洞化の抑制につながるような権利の調整を行いつつ、間伐等の整備を推進することが有効であり、こうした活動を県内全域で展開していくことが必要。
目指す姿・成果目標	住民協働による里山の整備を促進するとともに、木材利用をはじめとする多面的な森林資源の利活用を進めることで、森林と地域の関係性を再生し、自立的・持続的な長野県独自の森林管理を構築する。 【成果目標】 里山整備利用地域の認定 約150地域/5年間 里山の整備・利活用に取り組む里山整備利用地域数 約150地域/5年間

2 事業の実施状況

令和2年度の実施状況	里山整備利用地域における地域住民等の主体的な参画により、薪利用や森林を活用した教育活動など、里山の整備・利活用を推進。			
	事業内容	事業主体	事業実績	令和2年度決算額 [うち森林税活用額]
	森林を活用した地域活動 (森林の調査、研修会、調査・計画作成等)	里山整備利用推進協議会	20地域	41,946,000 円 [41,946,000 円]

事業コード	区分(単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
	Aの財源	前年度繰越	0	0	0	0		0
当初予算		9,800	18,050	44,000	42,000		113,850	
補正予算		-3,000	0				-3,000	
合計(A)		6,800	18,050	44,000	42,000		110,850	
森林税		6,800	18,050	44,000	42,000		110,850	
国庫支出金		0	0	0			0	
その他		0	0	0			0	
決算額(B)	4,744	23,731	41,946			70,421		
次年度への繰越額(外数)	0	0	0			0		

指標及びその達成状況

成果目標	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
①里山整備利用地域の認定 ②里山の整備・利活用に 取り組む里山整備利用 地域数	①	50地域	52地域	30地域	20地域	150地域	目標値は約150地域/5年間
	②	30地域	30地域	30地域	30地域	150地域	目標値は約150地域/5年間
	③						
	①	42地域	36地域	20地域		98地域	
	②	24地域	25地域	34地域		83地域	
	③						

目標に対する成果の状況	(達成状況) 里山整備利用地域は98地域となった。 昨年度の約1.8倍にあたる71地域では、里山整備利用地域活動推進事業が活用され、森林整備、薪やキノコ生産、遊歩道の整備、竹林整備、森林体験活動、獣害対策等が実施された。 (副次的な効果) 里山整備利用地域での地域活動の認知度が高まってきたことにより、各地域で様々な取り組みが進んでいる。取組が進むことにより、他地域の取り組みを自らの地域の課題解決の参考にするなど、良い循環が生まれている。
-------------	--

県民会議・地域会議等からの意見	・県民協働による里山整備・利用事業の活用事例も増えてきているように思う。今後も活動が継続できるよう、森林税も継続してほしい。
-----------------	--

3 今後の事業の方向性

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input checked="" type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施	
	課題	今後の方向性
	・里山整備利用地域活動推進事業が多くの地域で取り組まれるようになってきているが、里山整備利用地域の認定目標(150地域)の達成に加え、活動の支援や県内事例の紹介等地域活動が継続するような取組が必要。	・里山整備利用地域活動推進事業を活用した里山の整備が進んでいるが、3か年の支援期間が終了する地域も増えてくるため、事業が継続できるモデルを示すなど、次の展開への道筋づくりを検討する。

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート（令和2年度事業分）

事業名	④県民協働による里山整備・利用事業 (里山資源利活用推進事業)	部局	林務部	課・室	信州の木活用課
		実施期間	H30～	E-mail	ringyo@pref.nagano.lg.jp
事業区分	1 「防災・減災」及び「住民等による利活用」のための里山等の整備				
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)					
8つの重点目標	労働生産性、社会増減、観光消費額				
総合的に展開する重点政策	2-4 収益性と創造性の高い農林業の推進				
	6-1 個性豊かな地域づくりの推進				

1 事業の概要

現状	<ul style="list-style-type: none"> 山村地域の里山の保全には、地域住民等による里山の多面的な利活用を進め、管理の空洞化を抑制しつつ森林整備を図ることが重要。 住民共同による里山の整備を促進するとともに、木材利用や、教育、観光等の多面的な森林資源の利活用を進める事で、森林と地域の関係性を再生し、自立的・持続的な長野県独自の森林管理を構築していく事が必要であり、資機材の導入支援や遊歩道の整備も必要。
目指す姿・成果目標	里山整備利用地域の認定 約150地域/5年間 里山の整備・利活用に取り組む里山整備利用地域数 約150地域/5年間 【取組により期待される効果】 ・間伐材の搬出量の増加、路網整備の促進 ・里山を活用した副業の展開等による山村経済の活性化、人材育成 ・地域住民の里山利活用の増加

2 事業の実施状況

令和2年度の実施状況	・里山の資源を有効に活用し地域に還元する仕組みづくりを進めるため、自立的・持続的な管理体制の構築に必要な資材の導入等を支援した。			
	事業内容	事業主体	事業実績	令和2年度決算額 [うち森林税活用額]
	資機材等の導入(チェーンソー、薪割り機、簡易ウィンチ、移動式トイレ等)遊歩道の整備	里山整備利用推進協議会	里山整備利用地域の認定 20地域 事業利用地域31地域	16,508,000円 [16,508,000円]

事業コスト	区分(単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
	予算額	前年度繰越	0	0	0	0		0
当初予算		33,750	26,350	22,050	20,700		102,850	
補正予算		-26,000	-17,450	-5,050			-48,500	
合計(A)		7,750	8,900	17,000	20,700		54,350	
Aの財源	森林税	7,750	8,900	17,000	20,700		54,350	
	国庫支出金	0	0	0			0	
	その他	0	0	0			0	
決算額(B)		7,111	8,515	16,508			32,134	
次年度への繰越額(外数)		0	0	0			0	

指標及びその達成状況

成果目標		H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考	
①里山整備利用地域の認定 ②里山の整備・利活用に取り組む里山整備利用地域数	目標値	①	50地域	52地域	30地域	20地域	150地域	目標値は約150地域/5年間	
		②	30地域	30地域	30地域	30地域	150地域	目標値は約150地域/5年間	
		③							
	実績値	①	42地域	36地域	20地域			98地域	
		②	24地域	25地域	34地域			83地域	
		③							

目標に対する成果の状況	(達成状況)	・認定利用地域のうち、31地域で里山整備に必要な初期の資機材導入等(薪割り機、簡易ウィンチ、ウッドチップパー、刈り払い機、チェーンソー、歩道整備等)に対して支援を行った。
	(副次的な効果)	・里山の利活用を実施していく上で課題となっていた資機材の導入に対して支援を行ったことで、安全かつ持続的に活動を進める基盤が整った。

県民会議・地域会議等からの意見	<ul style="list-style-type: none"> 里山整備活動の状況や持続性、計画性等をどうチェックしているか。また、自立するためのサポートをどのように考えるか。 労賃は補助対象外とのことだが、地域をよくすることにつながるの、その辺りは検討していただきたい。 市民へ事業の必要性のPRが必要と思われる。
-----------------	--

3 今後の事業の方向性

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input checked="" type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施	
	課題	今後の方向性
	・里山整備利用地域における持続的・自立的な里山の管理に資する資機材の導入が進むよう、活動を担う地域住民に対する指導・助言が必要。 ・特にチェーンソー等の導入地域が増えてきているため、安全作業のための装備の導入や研修の実施についても併せて推進していくことが重要。	・各地域の課題を踏まえつつ、里山整備利用地域の活動が自立的・持続的な取組となるように各地域の林業普及指導員が主体的となりアドバイスしながら事業を推進する。 ・導入した資機材が安全かつ効果的に使用されるよう、里山整備利用地域リーダー育成事業等を活用した研修会の開催を促進する。

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート（令和2年度事業分）

事業名	⑤地域で進める里山集約化事業	部局	林務部	課・室	信州の木活用課
		実施期間	H30～	E-mail	ringyo@pref.nagano.lg.jp
事業区分	1 「防災・減災」及び「住民等による利活用」のための里山等の整備				
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)					
8つの重点目標	労働生産性				
総合的に展開する重点政策	2-4 収益性と創造性の高い農林業の推進				

1 事業の概要

現状	<ul style="list-style-type: none"> 里山の小規模個人有林等の整備を効率的かつ効果的に進めるためには、境界の明確化や森林所有者の同意取得を行い、施業を集約化するための条件整備が必要。 所有者の不在村化や境界の不明瞭などにより施業の集約化が困難な場合も存在するため、小規模個人有林等の整備を推進することが必要。
目指す姿・成果目標	防災・減災のために必要不可欠な里山の間伐等 概ね4,300ha程度/5年間 地域住民等の主体的な参画による里山の整備・利活用 概ね1,500ha程度/5年間 【取組により期待される効果】 ・森林整備の実施を通じた防災意識の向上(里山整備実施者の増加) ・里山を活用した副業の展開等による山村経済の活性化 ・地域住民の里山利活用の増加

2 事業の実施状況

令和2年度の実施状況	・小規模個人有林、不在村者所有森林等が多い里山の森林整備を推進するため、森林整備実施予定地の森林所有者の合意形成等を推進した。			
	事業内容	事業主体	事業実績	令和2年度決算額 [うち森林税活用額]
	<ul style="list-style-type: none"> 整備が必要な里山等の集約化 森林境界の明確化 	森林組合、森林所有者の団体等	・里山等の集約化 333ha ・森林境界の明確化 0ha	5,016,900円 [5,016,900円]

事業コスト	区分(単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
	予算額	前年度繰越	0	0	0	0		0
当初予算		14,400	8,000	5,600	6,750		34,750	
補正予算		-9,100	-3,700				-12,800	
合計(A)		5,300	4,300	5,600	6,750		21,950	
Aの財源	森林税	5,300	4,300	5,600	6,750		21,950	
	国庫支出金	0	0	0			0	
	その他	0	0	0			0	
決算額(B)	4,911	3,941	5,017			13,869		
次年度への繰越額(外数)	0	0	0			0		

指標及びその達成状況

成果目標	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
①防災・減災のために必要な里山の間伐 ②地域住民等の主体的な参画による里山の整備・利活用 ③(参考)本事業による集約化実施面積	①	1,290ha	1,800ha	950ha	795ha	4,300ha	
	②	150ha	232ha	303ha	375ha	1,500ha	
	③	900ha	500ha	350ha	450ha	—	
	①	115ha	803ha	808ha		1,726ha	
	②	18ha	59ha	81ha		158ha	
	③	324ha	263ha	333ha		920ha	

目標に対する成果の状況	(達成状況) ・小規模な個人有林等の集約化が里山整備におけるネックとなっている中、333haの森林において森林所有者の同意取得等を支援した。 ※本事業を使わずに、森林の集約化や森林整備を行う場合もある。 (副次的な効果) ・集約化に向けて地域の合意形成を進めたことで、地域ぐるみでの森林整備の重要性への理解が深まるとともに、防災意識が向上した。
-------------	--

県民会議・地域会議等からの意見	特に無し
-----------------	------

3 今後の事業の方向性

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input checked="" type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施	
	課題	今後の方向性
	・森林整備を行う箇所を特定する里山整備方針の作成や里山整備利用地域の認定は進んできたが、小規模な個人有林等の集約化は引き続き課題となっている。	・集約化実施後の要件としている「森林整備」は間伐に限定せず、下草刈や更新伐等多様な森林整備に対応できることとしたため、地域のニーズや森林の現況に応じた柔軟かつ積極的な集約化を後押しする。

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート（令和2年度事業分）

事業名	⑥地消地産による木の香る暮らしづくり事業 （「子どもの居場所」木質空間整備事業）	部局	林務部	課・室	県産材利用推進室
		実施期間	H30～	E-mail	mokuzai@pref.nagano.lg.jp
事業区分	2 自立的・持続的な森林管理のための間伐材等の利活用				
総合5か年計画（しあわせ信州創造プラン2.0）					
8つの重点目標	労働生産性、社会増減、観光消費額				
総合的に展開する重点政策	2-2 地域内経済循環の促進				
	2-4 収益性と創造性の高い農林業の推進				

1 事業の概要

現状	<ul style="list-style-type: none"> 県産材を身近な環境で積極的に利活用することにより、自立的・持続的な森林管理につなげていくことが重要。 幼少期に木と触れ合うことは、情緒を安定させるなど子どもたちの成長により良い効果をもたらすとされていることから、児童センターや商業施設のキッズルーム等の「子どもの居場所」の木質化等を進めていくことが重要。
目指す姿・成果目標	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの居場所の木造・木質化：概ね30箇所程度／5年間 子どもの居場所への木のおもちゃ等の設置：概ね240箇所程度／5年間 <p>【取組により期待される効果】 県産材利用者の育成・県産材製品の販路拡大を通じた県産材利用の促進</p>

2 事業の実施状況

令和2年度の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> 事業主体が運営する保育園・幼稚園・子育て支援センター、複合商業モール・飲食店等のキッズスペース等の「子どもの居場所」について、木造化・内装木質化、木の調度品・おもちゃ等の設置を支援。 			
	事業内容	事業主体	事業実績	令和2年度決算額 [うち森林税活用額]
	①木造・木質化（補助率2分の1以内、上限補助対象事業費499万円） ②木の調度品・おもちゃ等設置（同4分の3以内、同50万円）	市町村、社会福祉法人、NPO法人、学校法人、工務店等	①6箇所 ②60箇所	20,405,396円 [20,405,396円]

事業コスト	区分(単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
	予算額	前年度繰越	0	0	0	0		0
当初予算		23,750	23,750	21,500	21,500		90,500	
補正予算		-2,500	-2,841	-1,000			-6,341	
合計(A)		21,250	20,909	20,500	21,500		84,159	
Aの財源	森林税	21,250	20,909	20,500	21,500		84,159	
	国庫支出金	0	0	0	0		0	
	その他	0	0	0	0		0	
決算額(B)	20,579	20,908	20,405			61,892		
次年度への繰越額(外数)	0	0	0			0		

指標及びその達成状況

成果目標		H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考	
①子どもの居場所の木造・木質化 ②子どもの居場所への木のおもちゃ等の設置	目標値	①	5箇所	5箇所	5箇所	8箇所	30箇所		
		②	30箇所	30箇所	30箇所	75箇所	240箇所		
		③							
	実績値	①	7箇所	9箇所	6箇所			22箇所	
		②	57箇所	59箇所	60箇所			176箇所	
		③							

目標に対する成果の状況	(達成状況) 保育園・幼稚園・児童センター等を中心に、木造・木質化、木の調度品・おもちゃ等の設置、いずれのメニューも目標の箇所数を上回る実績となった。
	(副次的な効果) 令和2年度実施施設において、施設職員、施設を利用する子どもの保護者を対象にアンケート調査を行ったところ、多数の者から回答があった。県産材利用への波及効果、子どもの情緒への影響に関する設問にプラス方向に評価する回答が寄せられた。

県民会議・地域会議等からの意見	<ul style="list-style-type: none"> 幼稚園で利用した事例では、園児が木のおもちゃで元気に遊んでいる様子に感動した。 小学生が伐採から加工までを見学し、机・いすを製作したが、夢中になって取り組んでいる様子に喜びを感じた。 親子や家族で木に触れる機会の創出に意味がある。
-----------------	---

3 今後の事業の方向性

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input checked="" type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施	
	課題	今後の方向性
	<ul style="list-style-type: none"> 公募事業であることから、事業の対象者に効率的に事業の周知を図る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 事業周知の強化、事業募集開始時期を早める等の取組により、事業の効率的な執行に取り組む。

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート（令和2年度事業分）

事業名	⑥地消地産による木の香る暮らしづくり事業 (木工体験活動支援事業)	部局	林務部	課・室	県産材利用推進室
		実施期間	H30～	E-mail	mokuzai@pref.nagano.lg.jp
事業区分	2 自立的・持続的な森林管理のための間伐材等の利活用				
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)					
8つの重点目標	-				
総合的に展開する重点政策	2-2 地域内経済循環の促進 2-4 収益性と創造性の高い農林業の推進				

1 事業の概要

現状	<ul style="list-style-type: none"> 県産材を身近な環境で積極的に利活用することにより、自立的・持続的な森林管理につなげていくことが重要。 幼少期に木と触れ合うことは、情緒を安定させるなど子どもたちの成長に効果をもたらすとされていることから、県産材と身近に触れ合うための木製品づくり体験を支援していくことが重要。
目指す姿・成果目標	<ul style="list-style-type: none"> 木工コンクール応募者数 概ね5,500人程度/年(2022年度) 【取組により期待される効果】 県産材利用者の育成を通じた県産材利用の促進

2 事業の実施状況

令和2年度の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> 県内全域の小中学生等を対象とした木工体験活動(木工コンクール、木工教室等)や、小中学校や地域団体が行う木や森への理解を深める木工体験活動を支援。 			
	事業内容	事業主体	事業実績	令和2年度決算額 [うち森林税活用額]
	①県域活動型(補助率4分の3以内・上限補助対象事業費105万円) ②地域活動型(同4分の3以内・同50万円)	①長野県木材青壮年団体連合会 ②市町村・学校・林業者団体・NPO法人等	①木工工作コンクールの開催支援等:1件(木工工作コンクール応募者数2,913人) ②県内各地の木工体験活動の支援:27件	7,041,000円 [7,041,000円]

事業コスト	区分(単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
	予算額	前年度繰越	0	0	0	0		0
当初予算		7,050	8,550	8,250	7,400		31,250	
補正予算		-150	0	-1,000			-1,150	
合計(A)		6,900	8,550	7,250	7,400		30,100	
Aの財源	森林税	6,900	8,550	7,250	7,400		30,100	
	国庫支出金	0	0	0	0		0	
	その他	0	0	0	0		0	
決算額(B)	6,692	7,756	7,041			21,489		
次年度への繰越額(外数)	0	0	0			0		

指標及びその達成状況

成果目標	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考	
①木工コンクール応募者数	目標値	①	5,500人	5,500人	5,500人	5,500人	5,500人	
		②						
		③						
	実績値	①	4,608人	4,307人	2,913人		2,913人	
		②						
		③						

目標に対する成果の状況	(達成状況) 木工工作コンクールには2,913人の応募が集まり、一定の成果を上げることができたが、目標には達しなかった。 (副次的な効果) 子ども主体の活動であるが、付き添いの大人に対しても木工体験の場を提供することができ、県産材利用の意識醸成を図ることができた。
-------------	---

県民会議・地域会議等からの意見	特に無し
-----------------	------

3 今後の事業の方向性

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input checked="" type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施	
	課題	今後の方向性
	・地域活動型の事業の取り組みが少ない地域が生じている。	・特に地域活動型の事業実施が少ない地域での事業周知の強化を図りながら、引き続き県内各地での木工体験活動を支援するとともに、木工工作コンクールへの参加者の増加を図り、県産材利用者の育成を目指す。

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート（令和2年度事業分）

事業名	⑥地消地産による木の香る暮らしづくり事業 (木づかい空間整備事業)	部局	林務部	課・室	県産材利用推進室
		実施期間	R2 ~	E-mail	mokuzai@pref.nagano.lg.jp
事業区分	2 自立的・持続的な森林管理のための間伐材等の利活用				
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)					
8つの重点目標	労働生産性、社会増減、観光消費額				
総合的に展開する重点政策	2-2 地域内経済循環の促進				
	2-4 収益性と創造性の高い農林業の推進				

1 事業の概要

現状	<ul style="list-style-type: none"> 県産材利用の意識の向上のためには、身近な場所かつ波及効果が高い場所に県産材を利用し、県民に県産材の良さを体感してもらうことが重要。 新型コロナウイルスへの対策として、テレワークオフィス等の社会情勢に対応した新たな就業環境の整備や、ウィズコロナに対応した「DIY」による内装整備に注目が集まっていることから、オフィスや店舗等、多くの県民が利用する県有施設の木質化等を進めていくことが重要。
目指す姿・成果目標	<ul style="list-style-type: none"> オフィス・店舗等の木質化: 概ね24箇所程度/3年間 多くの県民が利用する県有施設の木質化: 概ね11箇所程度/3年間 <p>【取組により期待される効果】 県産材利用者の育成・県産材製品の販路拡大を通じた県産材利用の促進</p>

2 事業の実施状況

令和2年度の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> 事業主体が運営するオフィス・店舗等の既存施設のモデル的な内外装の木質化、木の調度品等の設置を支援。 県民の利用頻度の高いスペースの木質化、木の調度品等の設置を推進。 			
	事業内容	事業主体	事業実績	令和2年度決算額 [うち森林税活用額]
	①オフィス・店舗等の民間施設等の木質化、調度品の設置 ②多くの県民が利用する県有施設の木質化、調度品の設置	市町村、社会福祉法人、NPO法人、学校法人、工務店等	①4箇所 ②6箇所	30,425,151円 [30,425,151円]

事業コード	区分(単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
	予算額	前年度繰越			0	0		0
当初予算				40,800	49,350		90,150	
補正予算				-9,500			-9,500	
合計(A)				31,300	49,350		80,650	
Aの財源	森林税			31,300	49,350		80,650	
	国庫支出金			0	0		0	
	その他			0	0		0	
決算額(B)				30,425			30,425	
次年度への繰越額(外数)				0			0	

指標及びその達成状況

成果目標	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考	
①子どもの居場所の木造・木質化 ②子どもの居場所への木のおもちゃ等の設置	目標値	①		8箇所	11箇所		24箇所	
		②		3箇所	3箇所		11箇所	
		③						
	実績値	①		4箇所			4箇所	
		②		6箇所			6箇所	
		③						

目標に対する成果の状況	<p>(達成状況) オフィス・店舗等の民間施設等の木質化、木の調度品の設置は、目標の箇所数8箇所のところ、4箇所に留まり未達成。多くの県民が利用する県有施設の木質化、調度品の設置は、目標の箇所数を上回る実績となった。</p> <p>(副次的な効果) モデル性の高い木質空間の整備を促進することで、多くの県民の皆様が木の良さを体感でき、県産材利用への波及効果へつながった。</p>
-------------	---

県民会議・地域会議等からの意見	<ul style="list-style-type: none"> 事業を実施した施設があまり周知されていないので、積極的なPRが必要。 佐久合庁の木質化で素敵な空間ができた。今後、この空間を有効に利活用することが重要。
-----------------	---

3 今後の事業の方向性

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input checked="" type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施	
	課題	今後の方向性
	<ul style="list-style-type: none"> 事業の初年度であったため、効果的な事業周知が課題となった。 民間施設の木質化等の事業募集が事業工期を考慮し、1回となった。 	<ul style="list-style-type: none"> 事業周知の強化、事業募集開始時期を早める、事業工期を考え第2次まで事業募集を行う等の取組により、事業の効率的な執行に取り組む。

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート（令和2年度事業分）

事業名	⑥地消地産による木の香る暮らしづくり事業 (県産材公共サイン整備事業)	部局	林務部	課・室	森林政策課
		実施期間	H30～	E-mail	rinsei@pref.nagano.lg.jp
事業区分	2 自立的・持続的な森林管理のための間伐材等の利活用				
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)					
8つの重点目標	労働生産性、社会増減、観光消費額				
総合的に展開する重点政策	2-2 地域内経済循環の促進 6-1 個性豊かな地域づくりの推進				

1 事業の概要

現状	<ul style="list-style-type: none"> ・撤出した間伐材等を身近な環境で積極的に利活用することにより、自立的・持続的な森林管理につなげていくことが重要。 ・本格的な“インバウンド大県”を目指しているが、県内観光地等の外国人観光客向け案内標識は十分に整備されていない。 ・森林県長野として、観光地や県産材の魅力を国内外に広くアピールしているとは言い難い状況。
目指す姿・成果目標	県産材の魅力を発信しつつ、外国人観光客等の利便性の向上を図る。 【成果目標】 県産材公共サイン等設置枚数:概ね250枚程度/5年間

2 事業の実施状況

令和2年度の実施状況	事業を募集した結果、応募のあった2市村の案内標識10枚の作成を支援			
	事業内容	事業主体	事業実績	令和2年度決算額 [うち森林税活用額]
	県の方針に基づき、事業実施主体が設置する案内標識整備について、県産材利用を促すため、設計や製作に係る経費を支援	市町村 民間事業者等	案内標識10枚	3,009,500円 [3,009,500円]

事業コスト	区分(単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
	予算額	前年度繰越	0	0	0	0		0
当初予算		10,540	10,000	23,025	10,000		53,565	
補正予算		-7,000	-1,000	-9,000			-17,000	
合計(A)		3,540	9,000	14,025	10,000		36,565	
Aの財源	森林税	3,540	9,000	14,025	10,000		36,565	
	国庫支出金	0	0	0			0	
	その他	0	0	0			0	
決算額(B)	2,837	179	3,010			6,026		
次年度への繰越額(外数)	0	0	0			0		

指標及びその達成状況

成果目標		H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
①県産材公共サインの作成	目標値	① デザイン作成	63枚	63枚	117枚		250枚	H30年度は調査委託 R元年度以降は補助
		②						
		③						
	実績値	① 基礎調査	6枚	10枚			16枚	
		②						
		③						

目標に対する成果の状況	(達成状況) 県産材を使用した外国人にも分かりやすい公共案内標識を2箇所まで10枚制作した。 (副次的な効果) 観光客だけでなく、地元住民に対しても分かりやすい案内サインを設置することで、来訪者の増加や県産材の魅力発信に繋がった。
-------------	--

県民会議・地域会議等からの意見	・事業を実施していない地域があり、より多くの地域で実施する必要がある。
-----------------	-------------------------------------

3 今後の事業の方向性

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input checked="" type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施	
	課題	今後の方向性
	・事業実施を予定していた市町村において、予算を新型コロナウイルス感染症対策へ重点的に措置し、本事業の実施を先送りしたため、2か所の事業実施にとどまった。	・事業周知の強化、事業募集開始時期を早める等の取組により、事業の効率的な執行に取り組む。 ・建設部で新たに制定される「長野県案内標識整備指針」に基づく表記やデザインで、モデル性が高く波及効果が期待できるものを選定する。

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート（令和2年度事業分）

事業名	⑦薪によるエネルギーの地消地産推進事業	部局	林務部	課・室	県産材利用推進室
		実施期間	H30～	E-mail	mokuzai@pref.nagano.lg.jp
事業区分	2 自立的・持続的な森林管理のための間伐材等の活用				
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)					
8つの重点目標	再生可能エネルギー自給率				
総合的に展開する重点政策	2-2 地域内経済循環の促進				
	2-4 収益性と創造性の高い農林業の推進				

1 事業の概要

現状	<ul style="list-style-type: none"> 県産材を身近な環境で積極的に利活用することにより、自立的・持続的な森林管理につなげていくことが重要。 木材の地産地消や地消地産を推進する観点で、薪を流通させるための仕組みづくり等により里山資源をバイオマスエネルギーとして活用するための仕組みづくり等が必要。
目指す姿・成果目標	<ul style="list-style-type: none"> 薪流通の仕組み構築モデル件数:概ね10件程度/5年間 【取組により期待される効果】 身近な里山資源である薪が継続的に利用される仕組みを構築することにより、薪のさらなる普及を図り、里山の利活用を促進し、里山の持続的かつ自立的な維持管理を実現する。

2 事業の実施状況

令和2年度の実施状況	県内1地域において、本事業により薪の流通システム構築への取組を実施した。			
	事業内容	事業主体	事業実績	令和2年度決算額 [うち森林税活用額]
	<ul style="list-style-type: none"> 薪の先進地視察等 必要な機材の購入費 各種講習会・セミナーの開催 	市町村、NPO法人、公共的団体、林業者等が組織する団体等	・イナ森資源活用推進協議会、天龍村、売木村が事業主体となり、3地域で実施	3,482,000円 [3,482,000円]

事業コード	区分(単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
	Aの財源	前年度繰越	0	0	0	0		0
当初予算		3,750	3,750	3,750	3,750		15,000	
補正予算		0	-2,400				-2,400	
合計(A)		3,750	1,350	3,750	3,750		12,600	
決算額(B)	森林税	3,750	1,350	3,750	3,750		12,600	
	国庫支出金	0	0	0			0	
	その他	0	0	0			0	
決算額(B)		3,664	1,264	3,482			8,410	
次年度への繰越額(外数)		0	0	0			0	

指標及びその達成状況

成果目標		H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考	
①薪流通の仕組み構築モデル件数	目標値	①	2件	2件	2件		10件		
		②							
		③							
	実績値	①	3件	1件	3件			7件	
		②							
		③							

目標に対する成果の状況	<p>(達成状況) ・目標2地域に対して3地域で事業実施し、目標は達成</p> <p>(副次的な効果) ・地域内資源の新たな活用が開始され、若者も参加する人的ネットワークも構築</p>
-------------	--

県民会議・地域会議等からの意見	<ul style="list-style-type: none"> 実施していない地域があり、より多くの地域で実施する必要あり。 薪の利用促進をさらに進めていただきたい。 家庭と森林をつなげるのにとっても良い取組である。
-----------------	--

3 今後の事業の方向性

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input checked="" type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施	
	課題	今後の方向性
	<ul style="list-style-type: none"> 各地域で薪利用に向け取組もうとしている事業主体に対し事業を周知し、事業実施を促すことが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年度は、事業の活用を検討している事業主体に対し、事業周知の強化、事業募集開始時期を早め、効率的に事業実施することを促す。

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート (令和2年度事業分)

事業名	⑧松くい虫枯損木利活用事業	部局	林務部	課・室	森林づくり推進課
事業区分	2 自立的・持続的な森林管理のための間伐材等の利活用	実施期間	H30～	E-mail	shinrin@pref.nagano.lg.jp
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)					
8つの重点目標	労働生産性				
総合的に展開する重点政策	2-4 収益性と創造性の高い農林業の推進 4-1 県土の強靱化				

1 事業の概要

現状	山林に放置され、有効活用されていない松くい虫枯損木の利活用が課題。 枯損木は、水分が少ないため木質バイオマスの燃料チップとしての活用が有効。
目指す姿・成果目標	森林病害虫枯損木処理量7,000m3/2年間 【取組みにより期待される効果】 景観を損ねていた松くい虫被害林が整備されることで、他の地域の整備に対する意欲の高揚と木質バイオマス資源としての有効活用が促進。

2 事業の実施状況

令和2年度の実施状況	市町村が行う対象森林の調査、松くい虫枯損木の伐倒・搬出、木質バイオマス燃料等の資源化に対する取組に支援。			
	事業内容	事業主体	事業実績	令和2年度決算額 [うち森林税活用額]
	・松くい虫枯損木の伐倒 ・チップ化施設への伐倒木運搬	市町村、林業事業者	—	207,863,900円 [0円]

事業コード	区分(単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
	Aの財源	前年度繰越	0	0	0	0		0
当初予算		18,000	18,000	18,000	100,000		154,000	
補正予算		-11,434	-7,476	-18,000			-36,910	
合計(A)		6,566	10,524	0	100,000		117,090	
Aの財源	森林税	6,566	10,600	0	100,000		117,166	R2は財源を新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金に振替
	国庫支出金	0	0	0			0	
	その他	0	0	0			0	
	決算額(B)	6,566	10,524	0			17,090	
	次年度への繰越額(外数)	0	0	0			0	

指標及びその達成状況

成果目標	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考	
①取組を行う市町村 ②森林病害虫枯損木処理量	目標値	① 10市町村	10市町村	10市町村		51市町村	重複を除いた実数の累計	
		②			3,500m3			
	実績値	①	5市町村	6市町村	11市町村			22市町村
		②	(実数累計4市町村)	(実数累計7市町村)	(実数累計13市町村)			(実数累計13市町村)
			12,700m3			12,700m3		

目標に対する成果の状況	(達成状況) 目標に対する達成状況:110% 平成30年度～令和元年度に市町村が実施したモデル的な取組みにより得られた成果と課題を踏まえ、令和2年度から県内の木質バイオマス施設へ効率的に枯損木を供給するため、事業主体に林業事業者を追加し、本格的に枯損木の処理と利活用を推進した。 (副次的な効果) コロナ禍における地域の木材需要の急変を踏まえ、林業事業者の雇用の維持、事業の継続に寄与した。
-------------	--

県民会議・地域会議等からの意見	・事業が始まった2期目あたりは松枯れがすごく大きな問題でその度に話が出ていたが、今、松枯れの話は少なくなっており、これが解決の方向に動いているのであればよい。 ・病害虫被害枯損木の資源化が進み、里山が健全に再生することを期待する。
-----------------	--

3 今後の事業の方向性

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input checked="" type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施	
	課題	今後の方向性
	・枯損後数年経過した立木については、チップへの活用が出来ず、林地残材となった。 ・枯損木がFITの未利用材の区分でないため、発電施設との調整が必要。	・近隣の木質バイオマス発電施設への運搬が可能となり、引き続き事業を推進。 ・林業事業者による大規模な利活用により事業効果が表れたため、さらなる里山のアカマツ枯損木の利活用が期待される。

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート（令和2年度事業分）

事業名	⑨里山整備利用地域リーダー育成事業	部局	林務部	課・室	信州の木活用課
		実施期間	H30～	E-mail	ringyo@pref.nagano.lg.jp
事業区分	3 森林づくりに関わる人材の育成				
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)					
8つの重点目標	労働生産性、社会増減、観光消費額				
総合的に展開する重点政策	2-4 収益性と創造性の高い農林業の推進 6-1 個性豊かな地域づくりの推進				

1 事業の概要

現状	山村地域における過疎化や高齢化等が急速に進行し、森林管理の空洞化も深刻さを増していることから、住民協働による里山の整備・利用を推進することが必要であり、それを支える地域の人材の活用と育成が重要である。
目指す姿・成果目標	森林の整備や多面的利活用を推進するリーダーや多くの関係者をコーディネートする人材を育成するとともに、NPOや自主的な森林づくりに取り組む方々など森林づくりに関わる人々の力を結集し、地域主体の持続的な森林の整備利用を推進する。 ・地域リーダーの育成 概ね150人程度/5年間 ・森林の整備利用に携わる人材の育成 概ね4,500人程度/5年間

2 事業の実施状況

令和2年度の実施状況	・地域資源の利活用や木育など、多様なテーマを設定した研修会を開催した。 ・地域リーダーとなる人材をはじめ、里山管理活動を担う地域住民も参加した安全技術取得のための研修を実施した。			
	事業内容	事業主体	事業実績	令和2年度決算額 [うち森林税活用額]
	地域リーダー、里山管理人材の育成研修	長野県	研修会 21回	2,585,000円 [2,585,000円]

事業コスト	区分(単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
	予算額	前年度繰越	0	0	0	0		0
当初予算		2,751	2,611	2,621	3,119		11,102	
補正予算		-1,340	-521				-1,861	
合計(A)		1,411	2,090	2,621	3,119		9,241	
Aの財源	森林税	1,411	2,090	2,621	3,119		9,241	
	国庫支出金	0	0	0			0	
	その他	0	0	0			0	
決算額(B)	623	1,651	2,585			4,859		
次年度への繰越額(外数)	0	0	0			0		

指標及びその達成状況

成果目標		H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
①地域リーダー ②里山管理利用人材	目標値	①	30人	30人	30人	40人	150人	
		②	900人	900人	900人	1,200人	4,500人	
		③						
	実績値	①	30人	20人	63人			113人
		②	220人	739人	317人			1,276人
		③						

目標に対する成果の状況	(達成状況) ・県内各地で研修・講習会等を21回開催し、計317名が参加した。 ・新型コロナウイルス感染症の影響により、1回あたりの研修参加人数が制限される傾向にあり、延べ参加者数が伸びなかった。 (副次的な効果) ・参加者へのアンケート調査の実施により、幅広い参加者層の関心やニーズを把握することができた。 ・地域間の人材交流により、先進的な取り組みを他地域の地域リーダーが学ぶ流れが生まれている。
-------------	---

県民会議・地域会議等からの意見	当該事業で育成された方々がその後、就職したり継続して学んでいたり等、活躍している事例があれば教えてほしい。
-----------------	---

3 今後の事業の方向性

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input checked="" type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施	
	課題	今後の方向性
	・引き続き各地域のニーズを把握し講習会の企画につなげるとともに、地域間の人材交流等によりノウハウを広げていくことが必要。 ・各地域にチェーンソー等の装備の導入が進んでいるため、機械を用いた作業を安全に行うための講習会の開催を一層促進することが必要。	・里山の整備や利活用に関する具体的なノウハウの共有、蓄積を進めるため、既に活発に活動している里山整備利用地域の関係者に講師役をお願いすること等により、他地域への広がりや新たなリーダーの育成を図る。 ・長野県林業士等の既存の人材の活用と併せて、各地域のニーズとのマッチングを図る。

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート（令和2年度事業分）

事業名	⑩森林セラピー推進支援事業	部局	林務部	課・室	信州の木活用課
事業区分	3 森林づくりに関わる人材の育成、4 多様な県民ニーズに応えるための森林の利活用				
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)					
8つの重点目標	労働生産性、社会増減、観光消費額				
総合的に展開する重点政策	2-4 収益性と創造性の高い農林業の推進 6-1 個性豊かな地域づくりの推進				

1 事業の概要

現状	本県の豊かな森林資源や森林空間を維持していくには、多様な県民ニーズに応え、地域による自立的・持続的な森林の利活用が必要である。とりわけ、「森林セラピー」は、農林業・観光・医療の各分野の連携が可能であり、森林の利活用と地域の活性化策として期待されている。
目指す姿・成果目標	全国65箇所の基地のうち、県内に10箇所(最多)が所在する「森林セラピー県」として、森林セラピーの利用を促進するため、関連する産業(観光、健康、環境、産業)との連携の強化とセラピー基地等の魅力向上を図る。 ・コーディネーターの育成 ・森林セラピー基地の整備 全10箇所/5年間

2 事業の実施状況

令和2年度の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> 森林セラピー基地等協議会を開催し、基地間の情報共有を図るとともに、人材育成や施設整備の方向性等の検討を行った。 森林セラピーのコーディネーター等の育成プログラムやガイドツールの開発・制作を行うとともに、基地の安全性と利便性の向上を図るための修景林整備(支障木等の伐採)や歩道・看板・多目的バイオマストイレ等の施設整備を実施した。 			
	事業内容	事業主体	事業実績	令和2年度決算額 [うち森林税活用額]
	<ul style="list-style-type: none"> 森林セラピー基地等協議会開催 コーディネーター等の育成プログラムやガイドツール制作 施設整備 	長野県市町村	<ul style="list-style-type: none"> 協議会:2回 コーディネーター等人材育成ガイドツールの製作一式 施設整備:6箇所 	16,770,158円 [16,770,158円]

事業コスト	区分(単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
	予算額	前年度繰越	0	0	0	0		0
当初予算		17,521	38,309	20,700	15,916		92,446	
補正予算		0	-21,272	-3,040			-24,312	
合計(A)		17,521	17,037	17,660	15,916		68,134	
Aの財源	森林税	17,521	17,037	17,660	15,916		68,134	
	国庫支出金	0	0	0			0	
	その他	0	0	0			0	
決算額(B)	16,662	12,656	16,770			46,088		
次年度への繰越額(外数)	0	0	0			0		

指標及びその達成状況

成果目標	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
①コーディネーター育成 ②森林セラピー基地の整備	①					10人	
	②	実施4箇所	実施9箇所	実施6箇所		10箇所	
	③						
実績値	①	-	-	-			
	②	実施6箇所	実施6箇所	実施6箇所		実施のべ18箇所	
	③(実数累計6箇所)	(実数累計8箇所)	(実数累計8箇所)			(実数累計8箇所)	重複を除いた実数の累計

目標に対する成果の状況	<p>(達成状況) ・森林セラピー基地等協議会において、森林サービス産業モデル事業の信濃町、上松町の事例を共有するとともに、基地認定はないが同様の活動を行う小海町とも情報の共有が図られ、今後の方向性等を議論し次年度へのつながりが図れた。</p> <p>・森林セラピー基地の整備は6箇所において実施した。コーディネーター育成プログラムやガイドツール等を制作した。</p> <p>(副次的な効果) ・ガイド育成研修及び施設整備の実施により、各基地の利用者受け入れ体制の整備が進んでいる。</p> <p>・事業の実施を通じ、コーディネーターやガイドを活用した森林セラピー基地の利用者の増加(H30:7,023人→R元:7,195人)が見られる。</p>
-------------	---

県民会議・地域会議等からの意見	<ul style="list-style-type: none"> 森林づくりの様々な利活用手法としては、もっと多様なものがあると認識。そこに森林税が使われるようになると市民の参加範囲が広がるのでは。また、事業委託先にNPO等が入り森林と市民を繋げることで一般市民の森林への関心がより高まると思う。 人材育成講習等を受講した方々について、その後の活躍の事例などあれば教えてほしい。
-----------------	---

3 今後の事業の方向性

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input checked="" type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施	
	課題	今後の方向性
	<ul style="list-style-type: none"> 質の高い森林セラピープログラムの提供を行うための人材育成が必要。 施設の老朽化が見られるため、施設整備への要望が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> これまでの検討を踏まえ、各基地の中核的な役割を担うコーディネーターを段階的に育成する。 ガイド等については、令和2年度に制作したガイドツールを利用し、観光部・環境部と育成の連携を行うとともに、レベルの平準化、活躍の場の創出を行うことにより、継続的な活動が可能となる受講者を多く確保できるよう取り組む。 基地毎の事業量も精査しつつ、必要な施設整備を実施する。

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート（令和2年度事業分）

事業名	①エコツーリズムガイド人材育成事業	部局	環境部	課・室	自然保護課
事業区分		3 森林づくりに関わる人材の育成	実施期間	R1 ~	E-mail
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)					
8つの重点目標	-				
総合的に展開する重点政策	3-2 世界を魅了するしあわせ観光地域づくり 4-5 地球環境への貢献				

1 事業の概要

現状	<ul style="list-style-type: none"> ・本県の強みである豊かな森林資源や森林空間を維持していくには、地域による自立的・持続的な森林の利活用が必要 ・エコツーリズムなど、森林資源を有効に活用し、観光や健康、環境、教育等他産業と結び付け、地域を支える多様な産業や交流を創出できる人材を育成することが必要
目指す姿・成果目標	<ul style="list-style-type: none"> ・エコツーリズムガイドの育成 80名/4年間 【取組により期待される効果】 ・自然環境保全意識の向上 ・周遊型観光の促進と県内知名度の向上

2 事業の実施状況

令和2年度の実施状況	・森林をはじめとした自然資源を持続的に活用できる人材を育成し、自然体験の機会の充実を図るため、エコツーリズムガイド育成研修会を美ヶ原自然保護センターで開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、事業実施を中止。			
	事業内容	事業主体	事業実績	令和2年度決算額 [うち森林税活用額]
	エコツーリズムガイド研修会の開催	長野県	・研修会開催:3日間	0円 [0円]

事業コード	区分(単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
	Aの財源	前年度繰越		0	0	0		0
当初予算			1,672	1,564	1,979		5,215	
補正予算			0	-1,564			-1,564	
合計(A)			1,672	0	1,979		3,651	
決算額(B)	森林税		1,672	0	1,979		3,651	
	国庫支出金		0	0			0	
	その他		0	0			0	
決算額(B)			1,540	0			1,540	
次年度への繰越額(外数)			0	0			0	

指標及びその達成状況

成果目標	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考	
①エコツーリズムガイドの育成	目標値	①					80名	
		②						
		③						
	実績値	①		29名	0名		29名	
		②						
		③						

目標に対する成果の状況	(達成状況) ・30名のエコツーリズムガイドの人材育成を行う予定であったが、研修会の実施中止に伴い未達成。 (副次的な効果)
-------------	--

県民会議・地域会議等からの意見	<ul style="list-style-type: none"> ・一般市民の森林への関心を高め参加促すため、森林税を用いた様々な取組の推進やエコツーリズムガイドの人材育成研修の委託先にNPO法人を検討する必要がある。 ・人材育成の研修会を受講された方について、その後の活躍状況を教えて欲しい。
-----------------	---

3 今後の事業の方向性

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input checked="" type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施	
	課題	今後の方向性
	・令和3年度以降の事業実施にあたっては、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策の徹底や令和元年度の研修会参加者の意見も踏まえ、研修会のカリキュラムを検討する。	・ガイド研修会を引き続き開催し、人材の育成を行う。 ・研修会については、開催内容を検討し、早期の募集・周知を行うことで、多くの受講者を確保できるよう取り組む。

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート（令和2年度事業分）

事業名	⑫自然教育・野外教育推進事業	部局	教育委員会	課・室	学びの改革支援課
事業区分	3 森林づくりに関わる人材の育成	実施期間	R1 ~	E-mail	kyogaku@pref.nagano.lg.jp
8つの重点目標	労働生産性				
総合的に展開する重点政策	1-1 生きる力と創造性を育む教育の推進 1-2 地域とともに取り組む楽しい学校づくり				

1 事業の概要

現状	<ul style="list-style-type: none"> ・自然豊かな長野県に住んでいても、子供の自然体験の頻度は全国と同じ。 ・家の中で、体力を使わず、他者との交流が少ない時間を多く過ごしている。 ・子供の学校外での自然体験活動への参加は二極化し、経験の格差が広がる。
目指す姿・成果目標	信州ならではの豊かな自然を教育資源と捉え、幼保小中高を通じて自然の中での直接体験や仲間とふれあい、自然からの学びをととして、社会の急激な変化に適応し、たくましく「生き抜く力」を育成する。 モデル的に自然教育プログラムを実施する学校30校/5年間

2 事業の実施状況

令和2年度の実施状況	本県の強みである豊かな自然の特性を生かし、子どもたちの「自然を通して生き抜く力」「自然を大切にできる心」を育てるため、モデル校において自然教育・野外教育プログラムの実践検証を行い、成果の普及を図った。			
	事業内容	事業主体	事業実績	令和2年度決算額 [うち森林税活用額]
	プログラム実践(モデル校・プログラム推進校へのプログラム指導者の派遣) プログラムの評価・検証・改善	長野県教育委員会	モデル校指定6校 プログラム推進校1校 有識者による実践校現地視察	285,176円 [285,176円]

事業コスト	区分(単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
	予算額	前年度繰越		0	0	0		0
当初予算			1,163	1,794	1,792		4,749	
補正予算			0				0	
合計(A)			1,163	1,794	1,792		4,749	
Aの財源	森林税		1,163	1,794	1,792		4,749	
	国庫支出金		0	0			0	
	その他		0	0			0	
決算額(B)			241	285			526	
次年度への繰越額(外数)			0	0			0	

指標及びその達成状況

成果目標	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
①モデル校による自然教育・野外教育プログラムの実践検証	目標値	①	モデル校指定8校	プログラム推進校14校程度	プログラム推進校14校程度		30校
		②					
		③					
	実績値	①	モデル校指定6校	プログラム推進校1校			7校
		②					
		③					

目標に対する成果の状況	(達成状況) ・R元年度から継続のモデル校6校に加え、R2年度はプログラム推進校を1校指定し、各校でプログラムを実践 ・延べ25名の外部指導者を派遣 (副次的な効果) ・これまでボランティアとして学校とかかわってきている各種団体の外部指導者への支援。
-------------	---

県民会議・地域会議等からの意見	<ul style="list-style-type: none"> ・森林に関わる仕事に就きたいが職場が無いという話を聞くことがありますが、このような事業で育成された方々のその後や就職や継続して学んでいるのか等について事例があれば知りたい。 ・コロナ禍のため実施校が少なく残念でしたが、今後の可能性に期待したい。 ・信州やまほいくで育まれた知識・感性が自然教育によりその後小中学校でも伸ばせるように学校林の利活用と子どもたちが日常的に利用できるよう整備されるとよい。
-----------------	---

3 今後の事業の方向性

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input checked="" type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施	
	課題	今後の方向性
	<ul style="list-style-type: none"> ・自然教育・野外教育プログラムの充実 ・実践校の拡大 ・コロナ禍における体験活動の創出 	<ul style="list-style-type: none"> ・R3年度は、プログラム推進校として、外部指導者を利用してプログラムを推進する学校を募集。前期後期2期に分けての募集を継続。 ・HP等でプログラム推進校の取組を周知。 ・アクティビティとプログラム集の充実。

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート（令和2年度事業分）

事業名	⑬学校林等利活用促進事業	部局	林務部	課・室	信州の木活用課
		実施期間	H30～	E-mail	ringyo@pref.nagano.lg.jp
事業区分	4 多様な県民ニーズに応えるための森林の利活用				
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)					
8つの重点目標	労働生産性、社会増減、観光消費額				
総合的に展開する重点政策	2-4 収益性と創造性の高い農林業の推進				
	6-1 個性豊かな地域づくりの推進				

1 事業の概要

現状	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの頃に自然の中で遊んだりする経験が多いほど、自己肯定感が高くなる傾向があるという調査研究報告があることから、教育における森林の利活用を推進することが必要であり、手入れがされてこなかった学校林については、整備し利活用していくことが必要。 学校林は森林の多面的機能を学ぶ貴重な場であり、身近に森林がある本県の特性を活かし、自然・野外教育を推進することが必要。
目指す姿・成果目標	<ul style="list-style-type: none"> 長期間未整備のため利用困難な学校林約60箇所程度/5年間の整備・利活用(令和3年3月改正) 【取組により期待される効果】 森林を活用した森林環境教育の充実及び安全性の確保

2 事業の実施状況

令和2年度の実施状況	周囲を森林に囲まれた長野県で学ぶ児童・生徒の森林・林業への親しみや理解を深め、学校林を活用した森林教育を推進するため、手入れが放置され利用困難になっている学校林を整備するとともに、整備後の学校林での活動を支援した。			
	事業内容	事業主体	事業実績	令和2年度決算額 [うち森林税活用額]
	学校林の整備(除間伐等)・利活用	市町村、学校、PTA等	学校林の整備 13箇所 学校林の利活用 15箇所 (重複して実施している箇所があるため、全体では23箇所)	13,718,773円 [13,718,773円]

事業コード	区分(単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
	Aの財源	前年度繰越	0	0	0	0		0
当初予算		12,550	17,975	17,975	15,176		63,676	
補正予算		-8,000	-7,875	-3,250			-19,125	
合計(A)		4,550	10,100	14,725	15,176		44,551	
Aの財源	森林税	4,550	10,100	14,725	15,176		44,551	
	国庫支出金	0	0	0			0	
	その他	0	0	0			0	
決算額(B)		4,010	9,447	13,719			27,176	
次年度への繰越額(外数)		0	0	0			0	

指標及びその達成状況

成果目標		H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
①長期間未整備のため利用困難な学校林を整備	目標値	①	16箇所	16箇所	16箇所		60箇所	重複を除いた実数の累計
		②						
		③						
	実績値	①	6箇所	15箇所	23箇所		44箇所	
		②(実数累計6箇所)	(実数累計19箇所)	(実数累計35箇所)			(実数累計35箇所)	
		③						

目標に対する成果の状況	(達成状況)	<ul style="list-style-type: none"> 13校の学校林において、子供が安全に学校林で活動するため、危険木の除去や除間伐、歩道の整備等を実施した。 15校の学校林において、学校林の利活用に必要な資機材の導入や指導者の派遣を行った。
	(副次的な効果)	<ul style="list-style-type: none"> 学校林整備の過程を見学、体験することで森林環境教育の機会となっている。

県民会議・地域会議等からの意見	<ul style="list-style-type: none"> 信州やまほいくで育まれた知識・感性がその後小中学校でも伸ばせるように、学校林が整備され子ども達が日常的に利用できるようになるとよい。
-----------------	--

3 今後の事業の方向性

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input checked="" type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施	
	課題	今後の方向性
	<ul style="list-style-type: none"> 学校林の整備が進むに従い、資機材の導入・指導者の派遣等、学校林活動を実施するための支援のニーズが相対的に増している。 	<ul style="list-style-type: none"> 整備後の学校林を継続的・効果的に活用していくため、活動支援にも重点を置き、資機材の導入や地域人材とのマッチングにより、活動体制の充実化を図っていく。

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート（令和2年度事業分）

事業名	⑬自然保育活動フィールド等整備事業	部局	県民文化部	課・室	こども・家庭課
		実施期間	H30～	E-mail	katei-shien@pref.nagano.lg.jp
事業区分	4 多様な県民ニーズに応えるための森林の利活用				
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)					
8つの重点目標	合計特殊出生率				
総合的に展開する重点政策	5-4 若者のライフデザインの希望実現				

1 事業の概要

現状	・県独自の制度である「信州やまほいく(信州型自然保育)認定制度」による認定園において、森林での保育・教育活動の安全性確保や、教育環境の充実が必要。
目指す姿・成果目標	・整備が必要な森林を自ら所有又は賃借して使用する認定園等、約25園程度/5年間の整備 【取組により期待される効果】 ・信州やまほいく認定園の増加

2 事業の実施状況

令和2年度の実施状況	・森林整備(林間整備、下刈り、枝打ち、除伐、間伐、危険木の除去、倒木・折損木処理) ・トイレの設置、チップ敷き、歩道整備等			
	事業内容	事業主体	事業実績	令和2年度決算額 [うち森林税活用額]
	・遊歩道、木道整備 ・危険木の除去、ウッドチップ敷設 ・付帯施設(トイレ、東屋等)の整備等	信州型自然保育認定園	フィールド整備 10箇所	4,668,052円 [4,668,052円]

事業コスト	区分(単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
	予算額	前年度繰越	0	0	0	0		0
当初予算		5,325	5,325	5,325	5,325		21,300	
補正予算		0	0				0	
合計(A)		5,325	5,325	5,325	5,325		21,300	
Aの財源	森林税	5,325	5,325	5,325	5,325		21,300	
	国庫支出金	0	0	0	0		0	
	その他	0	0	0	0		0	
決算額(B)	4,623	4,602	4,668			13,893		
次年度への繰越額(外数)	0	0	0			0		

指標及びその達成状況

成果目標		H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考	
信州やまほいく認定園の活動フィールドの整備 約25園程度/5年間	目標値	①	8園	8園	8園	8園	32園		
		②							
		③							
	実績値	①	9園	5園(6カ所)	10園			24園	
		②							
		③							

目標に対する成果の状況	(達成状況) 要望があった10園でフィールド整備10カ所実施。 (副次的な効果) 自然保育を行う上で、障害となっている危険木の除去や、落下の恐れのある枝の剪定を行うことで、「子どもたちが安全に自然を体験することができるようになった。」など感謝の声を多くいただいた。
-------------	--

県民会議・地域会議等からの意見	・やまほいくの活動フィールドとなる里山の倒木や山林の荒廃によると思われる落石が増えている。子どもたちが安心して野外活動ができるように、調査、対策の更なる支援が必要。
-----------------	--

3 今後の事業の方向性

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input checked="" type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施	
	課題	今後の方向性
	・今後も引き続き、認定園に対し制度の周知等を行い、制度の普及促進につなげる必要がある。	・広く認定園に対して制度を周知し、積極的な活用を呼びかけるとともに、早期の事業募集、交付決定を行う。

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート (令和2年度事業分)

事業名	⑭まちなかの緑地整備事業	部局	建設部	課・室	都市・まちづくり課
事業区分	4 多様な県民ニーズに応えるための森林の利活用	実施期間	H30～	E-mail	toshi-machi@pref.nagano.lg.jp
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)					
8つの重点目標	-				
総合的に展開する重点政策	3-5 市街地の活性化と快適な生活空間の創造				

1 事業の概要

現状	<ul style="list-style-type: none"> 全国都市緑化信州フェアを契機に、市街地においても、木々に親しめる緑地整備を集中的に推進することが必要。 加えて、市街地の緑地は、ヒートアイランド現象の緩和や大気浄化などの生活環境の保全に寄与するとともに、安らぎや癒し効果により快適な暮らしを支え、長野県らしい景観を提供することから、適切な整備が必要。
目指す姿・成果目標	県民協働による市街地の緑化整備 概ね25箇所程度/5年間 【取組により期待される効果】 ・まちなかに木々を身近に感じられる魅力的な緑地が創出されることによる、都市の魅力の向上。 ・活動・交流の場としての利用によって地域の元気づくりを推進するとともに、緑化に関する人材発掘・育成等によって持続可能な緑化を推進。

2 事業の実施状況

令和2年度の実施状況	・市街地における木々に親しめる緑地の整備を集中的に推進するため、市町村及び民間団体が行う緑地の整備を支援。			
	事業内容	事業主体	事業実績	令和2年度決算額 [うち森林税活用額]
	緑地整備(樹木・芝等の植栽、花壇・ベンチ等の施設整備)	市町村 民間	緑地整備 1箇所	1,000,000円 [1,000,000円]

事業コスト	区分(単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
	予算額	前年度繰越	0	0	0	0		0
当初予算		4,000	5,750	2,000	4,000		15,750	
補正予算		-2,082	-2,000	-1,000			-5,082	
合計(A)		1,918	3,750	1,000	4,000		10,668	
Aの財源	森林税	1,918	3,750	1,000	4,000		10,668	
	国庫支出金	0	0	0			0	
	その他	0	0	0			0	
決算額(B)	1,760	3,750	1,000			6,510		
次年度への繰越額(外数)	0	0	0			0		

指標及びその達成状況

成果目標	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考	
①市街地の緑化整備	目標値	①	4箇所	4箇所	2箇所	2箇所	概ね25箇所程度	
		②						
		③						
	実績値	①	4箇所	2箇所	1箇所		7箇所	
		②						
		③						

目標に対する成果の状況	(達成状況) 1箇所の緑地整備を実施することで魅力的な緑地が創出され都市の魅力向上に寄与した。 (副次的な効果)
-------------	--

県民会議・地域会議等からの意見	特になし
-----------------	------

3 今後の事業の方向性

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input checked="" type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施	
	課題	今後の方向性
	・3か年を経過し、事業実施に至ったのは3市のみに留まっている。	令和2年度までの成果等を検証し、事業の見える化、他地域への拡大に取り組む。 ・事業実施事例をホームページ掲載等により広報する。 ・事業者アンケート等を行い、事業の改善点を把握する。 ・市町村に制度の説明や事例を紹介し、事業の活用を推進する。

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート（令和2年度事業分）

事業名	⑮観光地の景観整備 (県単道路橋梁維持修繕費)	部局	建設部	課・室	道路管理課
		実施期間	H30～	E-mail	michikanri@pref.nagano.lg.jp
事業区分	4 多様な県民ニーズに応えるための森林の利活用				
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)					
8つの重点目標	-				
総合的に展開する重点政策	3-2 世界を魅了するしあわせ観光地域づくり				

1 事業の概要

現状	<ul style="list-style-type: none"> 本県が目指す世界水準の山岳高原リゾート構築のためには、本県の強みである豊かな森林資源を活かした観光地の魅力向上が不可欠。 地域の景観に合致した街路樹の整備等が必要。
目指す姿・成果目標	<ul style="list-style-type: none"> 街路樹等の整備を行う街路延長 概ね延べ40km程度/5年間 【取組により期待される効果】 観光地の魅力向上による観光利用者の満足度の向上 街路樹剪定の実施にあたっては「街路樹剪定士」資格保有者による作業を要件とし、資格保有者の拡大を促すとともに、モデル事業として剪定技術に関する講習会など、街路樹管理技術向上の醸成を図る。

2 事業の実施状況

令和2年度の実施状況	・山岳高原リゾートを形成する観光地周辺等の街路において、景観形成のための街路樹の整備を実施した。			
	事業内容	事業主体	事業実績	令和2年度決算額 [うち森林税活用額]
	観光地周辺の街路樹整備	長野県	街路樹整備14km	24,000,000円 [24,000,000円]

事業コスト	区分(単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
	予算額	前年度繰越	0	0	4,000	0		4,000
当初予算		16,000	20,000	20,000	15,000		71,000	
補正予算		0	20,000				20,000	
合計(A)		16,000	40,000	24,000	15,000		95,000	
Aの財源	森林税	16,000	40,000	24,000	15,000		95,000	
	国庫支出金	0	0	0			0	
	その他	0	0	0			0	
決算額(B)		16,000	36,000	24,000			76,000	
次年度への繰越額(外数)		0	4,000	0			4,000	

指標及びその達成状況

成果目標		H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考	
①街路樹整備	目標値	① 延べ10km	延べ10km	延べ10km	延べ7km		延べ40km	R2にR元からの繰越3km含む	
		②							
		③							
	実績値	①	14km	10km	14km				38km
		②							
		③							

目標に対する成果の状況	<p>(達成状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> 国営アルプスあづみの公園や諏訪湖など観光地周辺の街路等をはじめ、ビューポイント整備に資する街路樹整備を実施し、観光地の魅力向上に繋がった。 <p>(副次的な効果)</p> <ul style="list-style-type: none"> 事業の実施箇所では森林づくり県民税を活用している旨の看板等の設置を行い、森林づくり県民税の周知及び理解の推進にも取り組むことができた。
-------------	---

県民会議・地域会議等からの意見	特に無し
-----------------	------

3 今後の事業の方向性

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input checked="" type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施	
	課題	今後の方向性
	・観光地周辺の街路樹整備による成果の検証や広報に努める必要がある。	・観光地魅力向上のため、周辺の街路樹整備を推進する必要性が高まっており、可能な範囲で対応したい。 ・地域住民や観光関係者へのアンケート等を通じて成果を検証するとともに、ホームページ等の広報を積極的に行い、広く周知に努める。

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート（令和2年度事業分）

事業名	⑮観光地等魅力向上森林景観整備事業	部局	林務部	課・室	森林政策課
		実施期間	H30～	E-mail	rinsei@pref.nagano.lg.jp
事業区分	4 多様な県民ニーズに応えるための森林の利活用				
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)					
8つの重点目標	-				
総合的に展開する重点政策	3-2 世界を魅了するしあわせ観光地域づくり				

1 事業の概要

現状	<ul style="list-style-type: none"> 本県が目指す世界水準の山岳高原リゾート構築のためには、本県の強みである豊かな森林資源を活かした観光地の魅力向上が不可欠。 地域の景観に合致した間伐の実施や、地域の特性・ニーズに合わせた間伐、除伐、竹林整備等が必要。
目指す姿・成果目標	<ul style="list-style-type: none"> 地域の景観に合致した間伐等 概ね110ha程度/5年間【取組により期待される効果】 観光地の魅力向上による観光利用者の満足度の向上

2 事業の実施状況

令和2年度の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> 豊かな森林資源を活かした観光地の魅力向上を図るため、地域の景観に合致した森林整備等を推進し、観光地等の魅力向上を図った。 			
	事業内容	事業主体	事業実績	令和2年度決算額 [うち森林税活用額]
	<ul style="list-style-type: none"> 景観整備 ビューポイントの樹木の伐採 	市町村	24箇所計30haの事業を実施	44,694,000円 [44,694,000円]

事業コスト	区分(単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
	予算額	前年度繰越	0	0	0	0		0
当初予算		7,605	35,000	35,000	35,000		112,605	
補正予算		0	0				0	
合計(A)		7,605	35,000	35,000	35,000		112,605	
Aの財源	森林税	7,605	35,000	35,000	35,000		112,605	
	国庫支出金	0	0	0			0	
	その他	0	0	0			0	
決算額(B)	7,605	43,479	44,694			95,778	予算額の35,000千円との差額(9,694千円)は他事業から流用	
次年度への繰越額(外数)	0	0	0			0		

指標及びその達成状況

成果目標	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考	
①地域の景観に合致した間伐等	目標値	①	17ha	29ha	29ha	30ha	110ha	
		②						
		③						
	実績値	①	11ha	43ha	30ha		84ha	
		②						
		③						

目標に対する成果の状況	<p>(達成状況) ・各地域から予算を大きく上回る要望が寄せられ、翌年度以降の計画を前倒しして事業を実施した結果、目標を上回る実績を上げることができた。</p> <p>(副次的な効果) ・観光地としての魅力が向上しただけでなく、地域の関係者にとっても里山に改めて関心を持つきっかけとなっている。</p>
-------------	---

県民会議・地域会議等からの意見	<ul style="list-style-type: none"> 周辺観光施設から感謝の声があり非常に意義がある事業。引き続きの事業実施に期待する。
-----------------	---

3 今後の事業の方向性

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input checked="" type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施	
	課題	今後の方向性
	<ul style="list-style-type: none"> 主要観光地の景観を損ねている森林や、高速道路沿線の大きい虫被害木(枯損木)対策など、本事業のニーズは依然として県内各地で高い状況にあり、予算を上回る要望が寄せられている。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、本県の豊かな森林資源を活かした観光地の魅力向上を図るため、地域の景観に合致した森林整備等を進める。

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート（令和2年度事業分）

事業名	⑩森林づくり推進支援金	部局	林務部	課・室	森林政策課
		実施期間	H30～	E-mail	rinsei@pref.nagano.lg.jp
事業区分	5 市町村に対する財政調整的視点での支援				
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)					
8つの重点目標	-				
総合的に展開する重点政策	2-4 収益性と創造性の高い農林業の推進 6-1 個性豊かな地域づくりの推進				

1 事業の概要

現状	<ul style="list-style-type: none"> ・広い県土を有する本県においては、各地域の様々な課題に応じて市町村が行う森林整備等の取組が不可欠。 ・森林を多く抱える山間部の町村は、総じて人口が少なく財政規模も小さいことから、財政調整的な支援は不可欠。
目指す姿・成果目標	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての市町村で地域固有の課題の解決の取組が行われること。 【取組により期待される効果】 ・身近な課題解決への取組による森林への関心の向上。 ・身近な里山などの森林整備や木材利用が図られる。

2 事業の実施状況

令和2年度の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・森林に関する各地域の様々な課題解決のために市町村が独自に行うきめ細やかな取組を支援し、事業実施後は市町村において成果の把握・検証を行った。 			
	事業内容	事業主体	事業実績	令和2年度決算額 [うち森林税活用額]
	市町村が行う身近な課題解決のための森林づくりの取組	市町村	実施市町村数 77市町村	90,000,000円 [90,000,000円]

事業コード	区分(単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
	Aの財源	前年度繰越	0	0	0	0		0
当初予算		90,000	90,000	90,000	90,000		360,000	
補正予算		0	0				0	
合計(A)		90,000	90,000	90,000	90,000		360,000	
決算額(B)	森林税	90,000	90,000	90,000	90,000		360,000	
	国庫支出金	0	0	0			0	
	その他	0	0	0			0	
決算額(B)		89,978	88,870	90,000			268,848	
次年度への繰越額(外数)		0	0	0			0	

指標及びその達成状況

成果目標		H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考	
①実施市町村数	目標値	①	77市町村	77市町村	77市町村	77市町村	77市町村		
		②							
		③							
	実績値	①	77市町村	77市町村	77市町村			77市町村	
		②							
		③							

目標に対する成果の状況	<p>(達成状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国・県の補助事業対象とならない松くい虫対策や、野生鳥獣被害防止のための緩衝帯整備等、各地域の様々な課題に応じた独自の取組が全ての市町村で行われた。 <p>(副次的な効果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市町村における地域課題の検討や、課題解決のための取組及びその内容についての情報発信に一定の進展があった。
-------------	--

県民会議・地域会議等からの意見	<ul style="list-style-type: none"> ・森林づくり推進支援金を活用した市町村の補助金が、個人所有の松くい虫被害木の処理にも適用できる場合があることを市町村民に知らせることが必要。 ・各市町村も国庫補助金等が使えないところに有効に活用していることが分かった。 ・実施した事業を市町村の広報等でわかりやすく知らせてほしい。県のHPだけでは見る人が少ないと思われる。
-----------------	---

3 今後の事業の方向性

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input checked="" type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施	
	課題	今後の方向性
	<ul style="list-style-type: none"> ・事業実施後に市町村は、みんなで支える森林づくり地域会議の意見も踏まえながら検証評価を行う必要があるが、成果を数値化することや新たな地域課題を把握するための支援が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各市町村の事業評価方法について、数値化等の客観的資料の例示を行う。 ・事業内容や実施地域の偏りが生まれないように、事業の整理や新たな課題の掘り起こしに向けて、施業履歴や地域課題の把握を図るよう市町村に促す。

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート（令和2年度事業分）

事業名	⑰みんなで支える森林づくり推進事業	部局	林務部	課・室	森林政策課
		実施期間	H20～	E-mail	rinsei@pref.nagano.lg.jp
事業区分	6 森林づくりの理解を深める普及啓発及び森林税の評価・検証				
総合5か年計画（しあわせ信州創造プラン2.0）					
8つの重点目標	労働生産性				
総合的に展開する重点政策	2-4 収益性と創造性の高い農林業の推進				

1 事業の概要

現状	<ul style="list-style-type: none"> ・県民アンケートでは、森林税の使途が分からないと回答した方が73.5%に及び、特に若年層の理解が広がっていないことから、より積極的かつ効果的な広報が必要。 ・チェック機能を強化しつつ、引き続き県民会議、地域会議による森林税を活用した事業の評価・検証が必要。
目指す姿・成果目標	<ul style="list-style-type: none"> ・森林税の使途の認知度30% 【取組により期待される効果】 森林税を活用した取組の増加

2 事業の実施状況

令和2年度の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・テレビ、ラジオ、SNS、イベント等による広報及び森林税の見える化を図るため地域の実情に応じた広報・普及啓発を実施。 ・森林税活用事業の内容や実施結果の評価検証に対して意見を聴くため、県民会議及び地域会議を開催。 			
	事業内容	事業主体	事業実績	令和2年度決算額 [うち森林税活用額]
	<ul style="list-style-type: none"> ・リーフレット、ラジオ等でPR ・各地域の広報誌・イベント等でPR ・県民会議、地域会議の開催 	長野県	<ul style="list-style-type: none"> ・ラジオ番組（AM,FM）を10回放送 ・県民会議2回、地域会議17回開催 	4,725,684円 [4,725,684円]

事業コード	区分(単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
	Aの財源	前年度繰越	0	0	0	0		0
当初予算		10,000	10,000	11,181	10,777		41,958	
補正予算		0	0		-554		-554	
合計(A)		10,000	10,000	11,181	10,223		41,404	
決算額(B)	森林税	10,000	10,000	11,181			31,181	
	国庫支出金	0	0	0			0	
	その他	0	0	0			0	
次年度への繰越額(外数)		0	0	0			0	

指標及びその達成状況

成果目標		H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考	
①森林税の使途の認知度	目標値	①	30%	30%	30%		30%		
		②							
		③							
	実績値	①	45.5%	43.6%	37.7%			37.7%	
		②							
		③							

目標に対する成果の状況	<p>(達成状況) ・令和3年2月に実施した県政モニターアンケートによると、森林税の使途の認知度は37.7%と目標を上回った。</p> <p>(副次的な効果) ・様々な媒体を活用し幅広い世代を対象に森林税の広報を行ったことで、森林の重要性や森林整備の大切さなどを多くの県民が認識することにつながった。</p>
-------------	--

県民会議・地域会議等からの意見	<ul style="list-style-type: none"> ・県民の半数に理解して頂けるよう努力が必要。 ・SDGsや環境面等、生活に関係の深いことを交えながら森林税の取組を伝えたらどうか。 ・森林税の仕組み及び利活用の必要性を再度知らせる必要があるのでは。
-----------------	---

3 今後の事業の方向性

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input checked="" type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施	
	課題	今後の方向性
	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、森林税の認知度を向上させるための取組を継続する必要がある。 ・特に認知度が低い傾向にある、若者や女性の認知度を高めるための広報が必要。 ・これまでの取組の成果を県全域に波及させることが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果を基に、広報効果が高い媒体を活用して、より効果的な広報活動を実施する。 ・動画やSNS等を活用して、若者や女性の認知度を高めるための広報を実施する。 ・森林税を身近に感じることでできる広報に努める。

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート（令和2年度事業分）

事業名	⑱森林(もり)の里親促進事業	部局	林務部	課・室	信州の木活用課
		実施期間	H15～	E-mail	ringyo@pref.nagano.lg.jp
事業区分	6 森林づくりの理解を深める普及啓発及び森林税の評価・検証				
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)					
8つの重点目標	労働生産性、社会増減、観光消費額				
総合的に展開する重点政策	2-4 収益性と創造性の高い農林業の推進				
	6-1 個性豊かな地域づくりの推進				

1 事業の概要

現状	近年、温暖化防止等の社会貢献や、福利厚生などを目的とした企業の森林づくりへの関心が高まっていることから、こうした企業による森林づくりを推進し、森林整備や都市部と山村の交流、森林への理解の促進を図ることが効果的である。
目指す姿・成果目標	県が仲介役となって、森林づくりへの参画を希望する企業のニーズに応じて地域とのマッチングを行い、「森林(もり)の里親」契約を締結する。 ・企業・団体等と地域との協定の締結 25件/5年

2 事業の実施状況

令和2年度の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> 新規契約の締結の掘り起こしに向けて企業とのオンライン協議や、イベント等でのPRパンフの配布を行った。 企業のニーズを踏まえて、地域とのマッチングを実施した。 			
	事業内容	事業主体	事業実績	令和2年度決算額 [うち森林税活用額]
	<ul style="list-style-type: none"> 企業との現地調査等 契約前のプレ活動 企業向け講座の開催 	長野県	新規契約 3件	53,656円 [53,656円]

事業コード	区分(単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
	Aの財源	前年度繰越	0	0	0	0		0
当初予算		1,002	1,002	1,002	1,002		4,008	
補正予算		0	0				0	
合計(A)		1,002	1,002	1,002	1,002		4,008	
決算額(B)	森林税	1,002	1,002	1,002	1,002		4,008	
	国庫支出金	0	0	0			0	
	その他	0	0	0			0	
次年度への繰越額(外数)		0	0	0			0	

指標及びその達成状況

成果目標		H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考	
①新規契約件数	目標値	①	5件	5件	5件	5件	25件		
		②							
		③							
	実績値	①	5件	5件	3件			13件	
		②							
		③							

目標に対する成果の状況	<p>(達成状況) コロナ禍であったが、企業のニーズに応じて、県が仲介役として地域の選定や受け入れ体制の調整を行った結果、目標には届かなかったが、3件契約できた。</p> <p>(副次的な効果) 企業との連携により森林づくりを行うことで、企業の社員と山村地域との交流を促すとともに、地域住民にとっても森林づくりに関心を持つ契機となった。</p>
-------------	--

県民会議・地域会議等からの意見	特になし
-----------------	------

3 今後の事業の方向性

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input checked="" type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施	
	課題	今後の方向性
	<ul style="list-style-type: none"> 累積契約件数が増加するに従い、里親となる企業のニーズに合った整備候補地選定に時間を要する傾向が強まっている。 全国的に同様の事業を実施しており、個々の企業への働きかけだけでは、新規契約を確保することが困難な面もある。 	<ul style="list-style-type: none"> 里山整備利用地域も含め、地域が主体的な活動を展開している地域を中心に、新たな受け入れ先の掘り起こしを行う。 個々の企業に加え福利厚生団体など、多様な企業が参画している団体への働きかけを行う。

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート（令和2年度事業分）

事業名	⑱地球温暖化防止木材利用普及啓発事業	部局	林務部	課・室	県産材利用推進室
		実施期間	H30～	E-mail	mokuzai@pref.nagano.lg.jp
事業区分	6 森林づくりの理解を深める普及啓発及び森林税の評価・検証				
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)					
8つの重点目標	-				
総合的に展開する重点政策	2-2 地域内経済循環の促進 2-4 収益性と創造性の高い農林業の推進				

1 事業の概要

現状	<ul style="list-style-type: none"> 県産材を身近な環境で積極的に利活用することにより、自立的・持続的な森林管理につなげていくことが重要。 県産材を使うことが地球温暖化防止につながることを広くPRすることが必要。
目指す姿・成果目標	<ul style="list-style-type: none"> 個人住宅や企業等の木質化でのCO2固定量の認証量:500t-CO2/年【取組により期待される効果】 県産材利用の促進

2 事業の実施状況

令和2年度の実施状況	県産材を使用した住宅や事業所の木造・木質化、木製品の二酸化炭素固定量を認証し、認証証書を発行。			
	事業内容	事業主体	事業実績	令和2年度決算額 [うち森林税活用額]
	県産材住宅の施主や店舗等を木造・木質化した企業等に対し、県産材利用によるCO2固定量を認証。	長野県	認証量 460t-CO2 (認証件数 2件)	25,470円 [25,470円]

事業コスト	区分(単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
	予算額	前年度繰越	0	0	0	0		0
当初予算		565	567	400	400		1,932	
補正予算		0	0	0			0	
合計(A)		565	567	400	400		1,932	
Aの財源	森林税	565	567	400	400		1,932	
	国庫支出金	0	0	0	0		0	
	その他	0	0	0	0		0	
決算額(B)	235	246	25			506		
次年度への繰越額(外数)	0	0	0			0		

指標及びその達成状況

成果目標		H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
①CO2認証固定量	目標値	①	500t-CO2	500t-CO2	500t-CO2	500t-CO2		設定なし
		②						
		③						
	実績値	①	354t-CO2	205t-CO2	460t-CO2			1,019t-CO2
		②						
		③						

目標に対する成果の状況	<p>(達成状況) 令和2年度の実績は、前年度の実績(認証件数6件、認証固定量205t-CO2)より認証件数は下回ったが、認証固定量は上回った。 (※令和4年度まで5か年の成果目標は設定なし)</p> <p>(副次的な効果) 認証を受けた企業が環境貢献の一環として広報することにより、認証制度や木材利用の普及につながった。</p>
-------------	---

県民会議・地域会議等からの意見	<ul style="list-style-type: none"> 県全体の地球温暖化対策の観点で森林税の事業を考える必要がある。 地球温暖化の問題意識を持つ県民も多く、森林税についてはその方向性でも展開すべき。
-----------------	---

3 今後の事業の方向性

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input checked="" type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施	
	課題	今後の方向性
	<ul style="list-style-type: none"> 本制度による認証取得が事業採択要件である「木造公共施設整備事業」の実施件数の減に伴い、認証の申請件数が減少。 工務店や県民等に制度が十分に浸透していない。 	<ul style="list-style-type: none"> 木づかい空間整備事業をとおして事業者の県産材利用のPRを図りながら、本事業の申請を促し、申請件数の増加を図る。

森林づくり県民税活用事業 検証・評価シート（令和2年度事業分）

事業名	⑳地球温暖化防止吸収源対策推進事業	部局	林務部	課・室	森林づくり推進課
		実施期間	H20～	E-mail	shinrin@pref.nagano.lg.jp
事業区分	6 森林づくりの理解を深める普及啓発及び森林税の評価・検証				
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)					
8つの重点目標	労働生産性				
総合的に展開する重点政策	2-4 収益性と創造性の高い農林業の推進				

1 事業の概要

現状	・地球温暖化防止のための吸収源対策を企業の社会的貢献活動の一環として取り組もうとするニーズが高まっている。
目指す姿・成果目標	・間伐等の森林整備によるCO2吸収量の評価方法を定め、企業等の森林整備活動をCO2吸収量で知事が評価・認証することにより、一層の企業等の参画による森林整備を促進する。

2 事業の実施状況

令和2年度の実施状況	・民間企業等のCSR活動を「見える化」するため、「森林(もり)の里親促進事業」で間伐等を実施した森林のCO2吸収量を県が評価・認証した。			
	事業内容	事業主体	事業実績	令和2年度決算額 [うち森林税活用額]
	・森林のCO2吸収量認証	長野県	・CO2吸収量認定量 1,293t-CO2	42,580円 [42,580円]

事業コスト	区分(単位:千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
	予算額	前年度繰越	0	0	0	0		0
当初予算		471	375	375	471		1,692	
補正予算		0	0				0	
合計(A)		471	375	375	471		1,692	
Aの財源	森林税	471	375	375	471		1,692	
	国庫支出金	0	0	0			0	
	その他	0	0	0			0	
決算額(B)	129	45	43			217		
次年度への繰越額(外数)	0	0	0			0		

指標及びその達成状況

成果目標		H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	合計(累計)	備考
①CO2吸収認定量	目標値	①	4,000t-CO2	4,000t-CO2	4,000t-CO2	3,000t-CO2		設定なし
		②						
		③						
	実績値	①	2,010t-CO2	1,660t-CO2	1,293t-CO2			4,963t-CO2
		②						
		③						

目標に対する成果の状況	(達成状況) 実績は目標の吸収量を下回る結果となったが、H20より継続して行われている事業であり、森林(もり)の里親企業等に対しある一定の認知が図られてきていると考えられる。
	(副次的な効果) 本認証制度活用により、企業等は、CSR報告書への記載やPRが可能となり、企業等のイメージ向上につなげられる。

県民会議・地域会議等からの意見	・目標数値を下回っているため、企業がより参加しやすい制度に見直しをされたい。 ・地球温暖化の問題意識を持つ方がたくさんいるので、森林税の使い途とリンクして、制度を展開されたい。
-----------------	---

3 今後の事業の方向性

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input checked="" type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施	
	課題	今後の方向性
	・今後も引き続き森林(もり)の里親企業等に対し、制度の認知・普及の促進を図りながら事業を進めていく。	・「森林(もり)の里親」企業等を対象に、森林の大切さや、森林の二酸化炭素が地球温暖化防止に果たす役割等に関する普及啓発を行い、「森林CO2吸収評価制度」の活用促進を図る。